
ケーキ屋さんの薔薇日記。

ももか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ケーキ屋さんの薔薇日記。

【Nコード】

N4192V

【作者名】

ももか

【あらすじ】

とあるケーキ屋さんでくりひろげられるBLストーリー！ ごくごく普通の男子高校生と、イケメン店長とかとか。神聖なるケーキ屋はホモだらけに……。とりあえず純愛とでも言うておこうk()はい、すみません。R15です。

店長はイケメンです。

「本日からここで働くことになりました！ 高梨^{タカナシ} 玲也^{レイヤ}です」

俺はこの制服だというなんだか趣味の悪いエプロンを着て、頭を下げた。

だってほんと、オシャレなカフェにはどう見ても不釣り合いな赤と黄色のエプロンだよ？

でもまあ年中金欠の俺にとって大事な大事な初バイトなんだ。

「じゃあ高梨くん、今日からよろしく。僕はここの店長をやってるサイオンジ^{アキヒト} 西園寺 秋人だ」

そういつてにつこり微笑む店長もおそろいの無駄に派手なエプロンだ。なんといいってもこの人こそがあの悪趣味なエプロンを作った張本人なんだから。

それにしても店長…… やっぱりイケメンだ！

男の俺でも思わず見とれちゃうくらいにきれいな顔してるんだよ。仮にモデルだって言っても納得できちゃうくらい。栗色のふさふさの髪とか、ブラウンの瞳とか、すらつと高い鼻とかさ。もう本当に人形みたいに整った顔してるんだ。

「なに？ 僕の顔なんかついてる？」

くすつと笑うだけですげーもん。この店に女の子の客が多いのも納得できるな。

「あ、それとも僕に見とれちゃった？？」

こういうとこさえない方がいいのに。さっき少し話したただけどき、この人きつと「黙っていればモテるのに」って言われるタイプだよ。

「ちがいますよ」

「照れなくてもいいのに……」

いや、まじで。てか俺、男だから！！

女の子口説くようなノリで話されても、逆に反応に困るって。

「あ、ここの店小さいからさ、従業員は僕とキミだけだからね」

「え、じゃあこのケーキとか全部店長が？」

「ずらりと並べられたケーキはどれもすごく美味しそう……どうい
か、作るのが大変そう。」

「ああ、これくらい朝飯前だよ」

「すっげー!!」

素直にそう思った。だってこんなにたくさんのケーキを毎日ひと
りで作ってるんだろ？ 俺、あんまり甘いものって好きじゃないん
だけどさ、ここのケーキは食べたいって思うもん。

「玲也くんもおひとつどうぞ？ これなんかおすすめ」

そういつて店長が出したのはショートケーキ、かな。

「食べちゃっていいんですか？」

「もちろん、めしあがれ♪」

フォークを手にするけどさ、俺ちゃんとしたケーキの食べ方とか
知らないや。ちょっと困つてると、店長が肩を小刻みにふるわせて
笑いだした。

「食べやすいように食べなよ。なんならフォークなんか使わないで
手でもいいし」

店長はにかつと笑うけど、さすがにそんなマナーの悪いことはで
きない。だから、ケーキのさきをちょこんとフォークで刺して口に
運ぶ。

「おいしい……うまいよ、これ！ 俺、こんなにうまいケーキ初めて
食べた！」

ケーキ独特の甘ったるさがなくて、さっぱりしてるんだけどほん
のり甘い。やわらかい生クリームにふかふかのスポンジ。どれをと
ってもめっちゃくちゃうまかった！

「ありがとう、気に入ってもらえて嬉しいよ」

店長がやんわりと微笑んだときだった。俺は大事なことを思い出
した……俺、金もってねえよ！

「てんちよおおおおおおお!!」

俺は店長に泣きついた。

「うおっ！ どうした？」

「俺、今日金もってません！！ このケーキ代……」
もうまじで泣きそう。フォークを名残惜しく啜えながら店長を見上げる。

店長の心の声：（ちょ、おいそんな顔で上目遣いとかすんなって
／／／）

「あー、いい！ バイト祝い（？）だ！」

なんで手で顔おおってんだ？ なんか顔赤い気もする……てか、
初日から店のもんだ食いつて。おこがましすぎだろっ！

「いや、でも俺……」

「あーっと、じゃあこうしよう」

店長は俺の頬にキスをした。

………つて、え？ ええ？ ええええええ？

「て、ててんちょ？？」

店長の心の声：（そんなほっぺちゅーくらいで真っ赤になっちゃ
つて、かわいすぎんだろ）

「俺のファーストほっぺちゅー……」

俺、今ほっぺにキスされたよなっ！ 俺、これが初めてのほっぺ
ちゅーなんだぞっ！ てか店長……なんで?????

「はい、これでチャラな」

「え？」

「ケーキ代」

あ、そういうことな。ほっぺちゅーがケーキ代のかわりってこと
だろ？ よくわかんないけど、まいっか。

「あつと、ごちそうさまでした？」

なんとなく頭を下げると、頭上からまさかの大爆笑！？

「あははははっ！ 玲也くん、キミのこと気に入った！」

「ふえっ！」

俺はどさくさにまぎれて店長に抱きしめられる。だから、なんで

?? 俺、男だし！

「僕と付き合わない？」

はいはい？

父さん、母さん、俺生まれて初めて告白されました。
いい年（つていつてもまだ20代だけど）の男に……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4192v/>

ケーキ屋さんの薔薇日記。

2011年10月9日03時15分発行